

防災特集

あなたにもできる『減災』

地震、津波、台風などの自然災害は思わぬときにやってきます。
 自然災害そのものは、人間の力で食い止めることはできませんが、
 災害による被害は、わたしたちの日ごろの取り組みによって減らすことができます。
 今号では、皆さんができる防災『減災』についてお知らせします。



『減災』って何？

これまでの災害に対する『防災』は、最新の科学技術などを活用して、災害の予知や予測をしたり、資源を投入して、災害の発生原因を制御したりするなど、災害に耐えられる環境を整えることで、災害を完ぺきに防ぎ『被害を出さない』ということを目標に、取り組みが進められてきました。

しかし、日本は地震や津波、暴風、豪雨、地すべり、洪水、高潮、火山の噴火、豪雪など、多くの種類の災害が発生しやすい自然条件にある上、過密な人口や高度化した土地利用、増加する危険物などの、さまざまな社会的条件を併せ持っているため、すべての災害による被害を防ぐには、限界があります。

そこで、近年、地震や豪雨などの大規模な自然災害が発生したときの被害を想定し、その『被害を最小限にとどめる』ために、限られた予算や資源を集中させるなどの手段を講じるという考えが生まれました。

これが『減災』です。

9月1日は

『防災の日』

大正12年（1923年）9月1日、『関東大震災』が発生し、14万2千807人の死者や行方不明者が出ました。
 また、昭和34年9月26日に発生した『伊勢湾台風』では、5千101人の死者、行方不明者が出る被害を受けました。

こういった災害を背景に、国民一人一人が、台風や高潮、津波や地震などの災害について認識を深めて、これに対する心構えを準備しようという趣旨で、昭和36年に設けられたのが『防災の日』です。

近年、登別市では幸いにも大きな災害は発生していませんが、忘れたころにやってくるのが災害です。

皆さんも『防災の日』には、災害への備えについて家族や友人と話してみてはいかがでしょうか。